

事務事業評価表(既存事業)

コード 13-2-6	事務事業名 体育指導委員の活用	所管部課 生涯学習部スポーツ振興課					
事務事業の概要	事務事業の目的 市民の求めに応じ、地域スポーツ活動に対して指導助言を行うと共に、教育委員会が行う事業に協力する。	総合計画上の位置づけ (政策)創造性の育つまちづくり (施策)スポーツ・レクリエーション活動の振興(創3-3) (主要施策)スポーツ・レクリエーションの普及					
	実施内容、実施方法 1.体力づくり教室・ウォーキング 2.派遣事業 3.ニュースポーツ公開講座 4.小学生ドッジボール大会	根拠法令等 スポーツ振興法					
	事業開始時期 平成 14 年度	実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( )				
評価指標の設定	活動指標名 開催回数	活動指標の考え方(定義) 体力づくり教室・ウォーキング、派遣事業、体力テストの開催回数					
	成果指標名 参加者数	成果指標の考え方(定義) 各種事業に参加した人数(目標1,800人)					
事務事業データ			単位	14年度	15年度	16年度	17年度
	事業費(A)		千円	4,896	7,127	5,759	6,496
	国庫支出金						
	都支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源			4,896	7,127	5,759	6,496
	所要人員(B)		人	0.20	0.20	0.20	0.20
	人件費(C)=平均給与×(B)		千円	1,649	1,655	1,666	1,666
	総コスト(D)=(A)+(C)		千円	6,545	8,782	7,425	8,162
	単位当たりコスト (E)=(D)/(参加者数)		千円	5.63	3.39	3.79	
	歳入		千円				
	活動指標	目標値	回			50	50
		実績値	回	30	53	52	
活動指標	目標値						
	実績値						
成果指標	目標値	人			1,800	1,800	
	実績値	人	1,162	2,587	1,959		
成果指標	目標値						
	実績値						
事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	年3回開催している体力づくり教室のウォーキングについては、大変好評であり、毎年楽しみにしている市民が多数いる。					
	国・都・他市・民間等における類似事業	小学生ドッジボール大会については、ドッジボール協会主催で行なわれているが登録費・参加費等があり参加チームが少ない傾向にある。					
	運営上の制約条件・外部要因等	昭和36年に成立した「スポーツ振興法」においては、体育指導委員のこれまでの実績を追認する形で市町村の教育委員会の非常勤公務員としての法的位置づけがなされた。加えて、地方交付税の基礎財政需要額において予算措置が講じられ、体育指導委員の制度が確立された。					

コード 13-2-6	事務事業名 体育指導委員の活用	所管部課 生涯学習部スポーツ振興課
---------------	--------------------	----------------------

項目	評価結果	判断理由、説明等
事業所管部評価	実績 <input type="checkbox"/> 極めて良好 <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	体育指導委員は、今までどおり地域住民に対するスポーツ指導を行なうことに加え、「スポーツ振興計画基本計画」にも触れられている「総合型地域スポーツクラブ」の育成支援など、地域と行政との調整役として、大きな期待が寄せられている。今後ますます多様化していく地域住民のスポーツ活動に対する要求に応えられよう、各種の研修会において、資質の向上が図られている。
	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 増大 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	体育指導委員が推進しているニュースポーツは、競技スポーツと違い技術やルールが簡単ですぐゲームができ、かつ適度の運動利用があって楽しむことができる。高齢化社会を迎え、誰でも参加できるスポーツとして今後ますますその必要性が高まるものと考えている。
	効率性 <input type="checkbox"/> 大きく改善 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	市における生涯スポーツの推進の中心的な役割を担う体育指導委員は積極的に、その活動に必要な専門的知識及び技術について研修を行い、資質の向上に努めている。
	公平性 <input type="checkbox"/> より充実 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	ニュースポーツを通じて、健康の維持促進を図ると共に、仲間づくりや家族とのふれあいを進め、広く市民の間にスポーツに関心が高まっていくことを願っている。
	総合評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	今後も事業を継続していくことが望ましい。

17年度における改善点	体育指導委員の改選により公募を行い定員20名のところ10名が再任、新任10名の構成になった。スポーツ指導に意欲のある人材が多数いますので、市民ニーズに応える体制ができました。
-------------	---

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止
--------	--

評価の視点

実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など

必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など

効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など

公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など

総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。

拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。

継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。

改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。

抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。

廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。